

2024年市議選立候補者回答記述一覧

20240309

回答者	質問4「選択制夫婦別姓」についてあなたはどのように思いますか ● × ▲()	質問10 女性の活躍のために何が必要だと思いますか (カ)その他()	質問11女性管理職の目標達成のためにどのような施策が必要か (エ)その他()	質問12-②「男女共同参画推進プラザ」の再設置についての思い ● × ▲()	質問13 ジェンダー平等の推進についての考えを聞かせてください
1 黒田実樹		● 1 ケア労働者の待遇を改善して人員を充実させる。	● 1 ①時短勤務の導入 ②研修などを通して意識改革	● 1 刑法改正や女性支援法の制定など女性問題がクローズアップされている中、市民への啓発や情報提供の活動拠点、困難を抱えた人のよりどころとなる意義がある。	◇ 1 ○ジェンダー社会の実現の根本には男女の賃金格差の是正が必要です。合わせて自治体レベルでの推進、具体的には、DV被害者を守るとりくみ、生理用品の公共施設、学校への設置、防災対策に女性の視点を入れるなど様々な施設の取り組みをすすめるべき。埼玉県でパートナーシップ条例の制定がすすまないことは問題。○選択的夫婦別姓制度の実現を。
2 小野大輔	● 2 いろいろな理由があるが、その人の尊厳が失われることになるのです点が一番大きいと思う。		● 2 ジェンダー平等の職場環境に変えていくこと。	● 2 ジェンダーについて考えたり、交流する場が必要だと考える。	◇ 2 私の世代よりも若い世代が関心を持ってくれています。そういう若い方々と一緒に行政に働きかける機会を作りたいです。若い方々から学びたいとも思います。
3 小野由美子				▲ 3 単独の施設も大切ですが、多目的に活動できる場所が新座市には少ない、それと、活動する団体の充実も必要と考えるので。	◇ 3 男女共同参画は今後重要な事と思っています。少子化が進む日本で、平等に考えていかないと、日本の未来は大変になってしまうと思っています。
4 島田久仁代	● 4 導入の是非について議論が続いていますが、改氏により日常生活上の不便やアイデンティの喪失など生きづらさを抱える方がいるので、夫婦が望めば別姓を認めるべきと考えます。	● 4 男女別の役割の固定概念を捨てること	● 4 給与制度見直しは必要。管理職になっても長く働くことができる環境づくり。	▲ 4 人権啓発のための拠点施設の整備については、市全体の公共施設の配置について検討する中で考えるべきと思っています。	◇ 4 性別、年齢、国籍、障がいの有無、就労などに関らず、多様性を認める社会の実現が不可欠と考えています。対話を起点とし、より多くの方と切磋琢磨し、ジェンダー平等の社会の実現に向け取組みたいと思います。
5 嶋田好枝					◇ 5 以前のように「男女共同参画推進プラザ」の活動拠点となる施設を市の責任で作ってほしいと考えます。

2024年市議選立候補者回答記述一覧

6 高邑 朋矢	● 6	自分が名乗りたい姓を選べるのは当り前のこと	● 6	男女の賃金格差をなくす。	● 6	女性	女性の採用を増やす。	● 6	そういう意識を多くの市民が持つべきだから。	◇ 6	地球上の人類は1種類（ホモサピエンス）男も女も同じ種です。両性があってこそ人類は反映していきます。平等なのは当り前のことです。
7 川村 よしひさ	✕ 7	子どもと親の苗字を変えたり、兄弟姉妹間の法的な苗字を変えてしまう所まで、現行制度を変えるべき意義を見出せないためです。			※ 7	数値	数値目標の達成自体に意義を見出しておりません。社会で活躍したい女性に「機会の平等」がなければ課題ですが、「結果の平等」を目指し過剰に推進すると、マイナスの影響もあると考えます。例えば、子どもの心を形成する幼少期に仕事をせず一緒にいたい母親が、その考え方を発信しづらくなる事を懸念する市民の声も頂いています。	▲ 7	大変恐縮ですが、新座市で解決すべき具体的な課題事例を、私自身聞いたことがないため「男女共同参画推進プラザ」の設置が課題解決に対して最も有効な手段なのか、現在の私には判断が付きません。	◇ 7	新座市の「男女共同参画都市宣言」について賛成の立場ですが、差別と区別を混同したり、機会平等ではなく結果平等を求めたり、ジェンダー平等の過剰な推進によって、欧米で起きてきた数々の事件、事例をを踏まえると、第二次成長期を終える前の行き過ぎた性教育の推進や、女性や子どもの安全を脅かすような公衆トイレ、浴場などに影響を及ぼす条例制度に反対の立場です。すでにさいたま市北区では女性トイレがなくなった公園があり、アメリカの一部州、ドイツなどで性犯罪が増加した道と同じ流れを辿っていることを懸念しています。一方、新座市で起きている課題について情報収集不足でもありますので、解決すべき課題に対しては分析を行い有効な対策を提案する事で、男女共同参画都市宣言を具体化して参ります。
8 笠原 進	● 8	ジェンダー平等の視点に立てば、早急に実現すべきです。			● 8	正規	正規職員の増加	● 8	ジェンダー平等の推進のためには中心的役割を果たす部署が必要	◇ 8	ジェンダー平等の社会をつくっていくためには、いろいろな分野でのゆがみをただしていくことが必要ですが、なかでも男女の賃金格差を是正することはとても大事なことだと思います。
9 石島 陽子					● 9	住民	住民サービスの観点から難しいことともありますが、ライフワークバランスを考えた業務の見直し	● 9	常に男女共同参画に関する啓発パンフレットや書籍等が置かれ、市民が学習することができる場があることは大事だと思います。行政の位置づけもより意識化されるのではないのでしょうか。	◇ 9	もうけ最優先という社会のあり方を変えることが、大事だと思います。男女ともに能力が発揮できるようなジェンダー平等社会は、個々人が豊かに生きることができ、結果的に社会が豊かになると思います。

10 山口歩							◇ 10 私個人のみ判断ではなく、様々な関係団体との調和が必要な案件かと思われますので調査に時間がかかり個別の質問には対応が難しいところになります。ご判断の際には、各種SNSなどに考えや活動報告等を掲載しておりますので、そちらをご確認いただけますと幸いです。			
11 井上正彦	▲ 11	旧姓も公式に使える制度作りや複合姓を使える様にする。	● 11	(男女問わず)産休取得しても、元の立場で社会に戻れる。	● 11	公平な人事評価	▲ 11	設置が目的になってしまうと本当の推進ができなくなる。	◇ 11	生物学的な男女差を無視しての推進に女性の立場が悪くなる。参画したくない女性も多くなか、強制的にならない配慮が望まれます。男女問わず進めることはよいので広報を進め広く意義付けることが必要だと思っています。
12 伊藤信太郎									◇ 12	性別を問わず能力のある人が活躍しやすい環境にすることは当然のことと考えます。以前あった「にいざ広報」で貴活動の動きが紹介されなくなっているのが残念です。
13 田口訓子	● 13	私自身も、婚姻による姓の変更時に、アイデンティティの揺らぎを経験したため。	● 13	家事と育児を家庭だけで抱え込まない。行政のサービス、仕組み。男性の過程進出の権利の推進	● 13	目標を達成しても、継続できる環境と制度が揃っていないければ無意味ではないか。まず、男女問わず管理職の立場にある職員がライフワークバランスを十分に保てるようにすべき。	▲ 13	ジェンダー平等を推進する中核部署の設置は、市の姿勢を表すためにも必要と考えますが、一方で再設置ありきではなく意義のあるものにしていくことが必要と考えます。	◇ 13	性別によって望む機会の選択に差や制度が加わる社会を子どもたちに残したくありません。